

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 利用者氏名：T・K様（80代・男性・要介護2）

病名：アルコール性肝硬変・統合失調症・アルツハイマー型認知症

利用サービス：2019年1月～5月しおさい入所を利用

経過：H30年6月頃より被害妄想ありHクリニック通院アルツハイマー型認知症と診断。同年9月被害妄想悪化しMホスピタル入院となる。症状が安定し平成31年1月に当施設リハビリ目的で入所となる。

内 容

TさんはH30年9月に統合失調症による被害妄想の悪化からご家族に包丁をつきつけたり、夜間近所で興奮してかかりつけ医に鎮静薬を注射してもらうなど精神症状がかなり強く出ていたため、ご家族はMホスピタルの退院すら不安に感じておられました。当施設においてもご入所にあたり、これまで統合失調症の方と関わったことのない職員が多かったため、まずは疾患の理解や服薬に対する注意点など勉強したうえで受け入れる体制を整えました。

ご入所当時のTさんは退院後すぐにご自宅に帰れるつもりでいたようで、表情は硬く、笑顔もほとんどなく、施設での生活自体が嫌だとおっしゃっていました。また薬へのこだわりも強く夜間になると不安になるのか就寝薬に執着する様子が続きました。そんなTさんに今後どうしたいか伺ったところ「杖で歩けるようになり、自分の家で暮らしたい」とのご希望がありました。そのご希望に対してご家族は「家に帰るには外に急な階段があるし、また以前のように被害妄想や易怒性が再発するんじゃないかと思うと怖くて帰したくない」とのお答えでした。

私たちは、なんとかTさんのご希望を叶えたいと思い、まずは安定した歩行や階段昇降が出来ることを目標としました。入院生活中に精神薬により活動性が低くなり、筋力の低下のみならず意欲低下もあり自室で過ごすことも多かったのですが、目標を定めたことで少しずつ前向きにリハビリに取り組むように変化していきました。当初は摺り足歩きで、とても階段昇降出来るかと不安も残りましたが、リハビリ以外の時間もケアスタッフと練習を重ね屋内での階段昇降までたどり着きました。日中の活動性が上がったことで夜間の不眠の訴えも減り良眠されるようになりました。そんな姿を日々のご面会で目の当たりにしてきたご家族にも変化が現れ、「こんなに精神的にも落ち着いて、階段も昇り降り出来るなら自宅へ帰れるかもしれない」とのお声が聞かれるようになりました。そのため当初から問題となっていたご自宅までの不規則

で急斜面にある外階段を実際に昇り降り出来るか外出して確かめることにしました。いざご自宅に外出するとなるとTさん自身が不安になり「階段昇れるかな…」と弱気になっていましたが、ずっと一緒に練習してくれた職員と一緒になら行ってみようと思欲を取り戻して下さいました。実際に外出して階段昇降が出来ると、Tさんのみならず、ご家族からも素晴らしい笑顔を見せて頂きました。この外出がTさんとご家族の自信に繋がり在宅復帰が決定しました。Tさんは「入院してからは、もう家には帰れないのでは…と諦めていたけど、家に帰れて嬉しい」と泣いて喜ばれ、ご家族も「こんなに笑うようになって良かったです」とおっしゃっていました。

精神疾患を患うと、ご家族の受け入れが困難になることも多く、入院生活を余儀なくされる方が多い中、Tさんの頑張る姿がご家族の心を動かし在宅復帰まで辿り着けた症例となりました。また表情も硬かったTさんが入所生活中にたくさんの笑顔を取り戻し、退所時訪問でご自宅に伺った際には趣味のカラオケも披露して下さいました。Tさんに笑顔と、ご自宅で輝きの生活を取り戻した症例となりました。